叶え合う支援

BOOKLET

支え合うから、叶え合うへ。

vol.01 | 2025.9 ▼ 2026.3

叶え合う支援

「叶え合う支援事業」とは、個人や組織・団体、コミュニティなどがつながり合い、
地域全体で支え合う関係性をみんなでつくっていくためのプロジェクト。
「する・される」という一方的な関係性ではなく、お互いの願いや思いを「叶え合う」ような、
対話的で創造的なプラットフォームを目指しています。

多くの場合、支援は フォーマル か インフォーマル のどちらか片方で行われてきました。しかし、いまは多様な人が関わるようになり、両者をうまく「混ぜ合わせながら」支援していくことが大切になっています。その中で、「する・される」を超えて、お互いに叶え合う関係をつくっていく必要があります。

どんなに制度を整えても、その「はざま」にこぼれ落ちてしまう人がいる。だからこそ、制度と地域がそれぞれの得意な力を活かし合い、支え合っていくことが必要です。そのとき大切にしたいのが、「連敬」という考え方です。

連敬とは？

それぞれの立場や役割を知り、お互いを尊重・尊敬することから連携は始まる、という私たちの造語です。

フォーマルとインフォーマルが交じり合った支援

FLAT LOCATION!

関係の回復が、社会参加への一歩を支えた

重層的な課題を抱える家族への支援では、身体機能の回復だけでなく、家族の「関係回復」を大切にした関わりが行われました。訪問看護事業所が本人や家族それぞれの思いに寄り添いながら、小さな肯定体験を積み重ねることで、家庭内の緊張がやわらぎ、笑顔や会話が戻っていきました。
その変化は、地域とのつながりの中でさらに広がりました。フラットロケーションという誰でもフラットに参加できるイベントで、「すぽっとさん」(短時間のお仕事体験)に参加したことをきっかけに、「またやってみたい」という前向きな気持ちが生まれ、最終的には自らハローワークへ足を運ぶ行動へとつながりました。家族・地域・医療が連敬することで、その人らしい社会参加への一歩が生まれた事例です。

※本文に寄り添うイメージ写真を掲載しています。
事例のご本人ではありません。

強みを生かした関わりが、社会参加への一歩に

制度の狭間にあるご家族を、インフォーマルな支援で9年間伴走を続けてきました。その中で、娘さんの強みである「得意な絵」を活かしたイベントを開催しました。地域の子どもたちが喜んでくれたことは、大きな喜びとなり、社会参加のきっかけになりました。報酬として受け取った商品券で、家族みんなで老舗カフェのパフェを楽しんだことも、忘れられない体験となりました。
地域の協力と伴走支援の積み重ねにより、現在はお子さんたちも新たな挑戦に踏み出し、お母様にも安心と希望が戻りつつあり、フォーマルな支援に少しずつ橋渡しできるようになっています。

What could we have done differently?

考えてみよう

一方で…

課題をつきつけられた事例

間に合わなかった支援が問いかけるもの

独居で暮らしていた男性は、圧迫骨折をきっかけに急速に寝たきりとなり、褥瘡(床ずれ)の悪化や感染リスク、ゴミが散乱した住環境、電気の停止など、生活全体が崩れかけた状態で発見されました。医療だけでも、生活支援だけでも支えきれない、複数の課題が重なった深刻なケースでした。

制度や支払いの見通しが立たない中でも、社協を起点に民間が介入し、褥瘡(床ずれ)の処置や感染対応、痛みを和らげるケアといった医療的支援と、生活環境の整備や制度申請といった生活支援を同時に始めました。それは、「条件が整ってから支援する」のではなく、「今、必要だから動く」という支援でした。
けれども、支援が動き始め、社会とのつながりがわずかに生まれ始めたその矢先、男性の状態は急速に悪化し、介入から約10日後に亡くなられました。支援は始まっていたのに、間に合わなかった――その現実はとても重く、支援の限界と課題を突きつけます。

この事例は、制度ではすぐに救いきれない命の危機があること、そして危機の現場では医療・生活・経済の問題に同時に向き合う必要があることを示しています。“誰がこのリスクを担うのか”という問いは、支援に関わる私たち全員に投げかけられています。

RENKEI MEETING

連敬ミーティング

全4回のシリーズでは、各カテゴリーの方々との対話を通じて、支援について共に考える場をつくりました。実際の支援事例や等身大のコメントを共有しながら、制度の狭間にいる人をどう支えるか、自分たちに何ができるかを互いに考え、気づき、実践することの大切さを確認しました。今後は、ミーティングで繋がったみなさんと地域資源を活かし、福祉・企業・地域との連敬をさらに深めていきます。

話題提供者

01/ フクシの連敬ミーティング

2025.11.25 TUE

大学卒業後ゼネコンに就職。第2子の障がいを機に退職し一級建築士事務所を起業。現在は就労福祉事業に従事。自身の経験から子どもの居場所と自立の重要性を実感し、地域で子どもを支える環境づくりを推進している。

はまぞの ひろみ
浜薗 浩美
こども応援ネットワークPine 代表
/株式会社Cuddle 副社長

救命救急センターで多くの看取りに関わり「生きるとは何か」を探求。ケアプロ訪問看護で在宅看護を実践し、2024年草加ステーションを開設。医療福祉連携を進め、スピリチュアルペインの緩和と「その人らしい生」を支える看護を追求している。

たかはし けいた
高橋 啓太
ケアプロ訪問看護ステーション草加 所長
/ 看護師

02/ キギョウの連敬ミーティング

2026.1.22 THU

「地域にありがとう!をお届けする」をスローガンに、日々活動している。商工会議所青年部も地域の活動のひとつ。100名のメンバーと社業、地域が良くなる学びを深めながら、人の繋がりを求めて活動している。お酒、イベントをフックにして地域に関わるご相談に対応している。

いわなが まさなお
岩永 将直
有限会社イワナガ 専務
草加商工会議所青年部会長

すずき はるか
鈴木 遥
株式会社アークス
広報企画部

内外装リフォームから不動産売買まで手がける株式会社アークスで広報企画を担当。代表の地元貢献の想いのもと地域活動やイベントを推進。就労支援の実習受け入れにも取り組み、地域と人の未来をつなぐ仕事を大切にしている。

03/ チイキの連敬ミーティング

2026.1.30 FRI

かつべ れいこ
勝部 麗子
大阪府豊中市社会福祉協議会

04/ ミンナの連敬ミーティング

2026.2.27 FRI

ひしぬま みきお
菱沼 幹男
日本社会事業大学
社会福祉学部 福祉計画学科 教授

01/ フクシの連敬ミーティング

児童と高齢と障がいと困窮。分野を超えた「連敬」を目指そう!

46.5% の方が、

参加者の中で、**「他の福祉関係者と交流したかった」**と回答しており、これが本事業の最も多い参加理由となりました。福祉の現場にはさまざまな支援職がありますが、実際には業種や業界を越えて交流する機会は多くありません。役割や立場が違えば視点も異なり、支援で大切にすることも変わります。

本事業では、専門職に加え、インフォーマルな立場で支援する方も参加し、ワークを通じて**「どのような目線や立場で支援するのか」**を共有しました。そのことが、「連敬」へ向けた大きな一歩になったと考えています。

その人にとって一番の望みとは。

支援対象者には、身体面(機能面)の支援ももちろん大切ですが、本当に求められているのは「心の中からくるもの」かもしれません。

訪問看護の高橋さんからは、「スピリチュアルペイン」の例として、長く入浴を拒否していた方が、人生の最後の段階で入浴を受け入れ、自分を大切にする感覚を取り戻せたという実例を共有していただきました。

また、子ども食堂を通じて多様なアウトリーチと支援を続けている浜薗さんからは、支援を「続ける」ことの大切さ、時間をかけて信頼関係を築き、最終的に支援制度につなげていった事例を共有していただきました。

ケアプロ訪問看護ステーション埼玉 草加ステーションの休憩拠点として開設された新田サテライトは、地域にひらかれた場を目指し、多様な人々を受け入れ始めています。ここは、遠くない未来に、さまざまな地域福祉の取り組みが生まれる“装置”のような場所へと成長していくでしょう。

RENKEI MEETING vol.01
2025.11.25 TUE

02/ キギョウの連敬ミーティング

市内の企業が集合！ 異業種の「連敬」を目指そう！

最初は「障がいのある方と どう接して良いのか分からなかった」

そう話すのは、地域密着の塗装業を営む株式会社アークス 広報企画部の鈴木さんです。同社は創業時から地域貢献に取り組み、ある紹介をきっかけに、就労移行支援事業所の利用者の受け入れを始めました。鈴木さんはこう振り返ります。「“障がい者”という言葉だけで、受け入れや関わりのハードルが高くなりがちです。でも、実際に一緒に仕事をしてみると全然違いました。ひとつの“個性”として考える方が、私にはすごくしっくりきます。先入観やレッテルではなく、これからも一人ひとりと向き合っていきたいです。」こうした実体験を、参加者のみなさんと共有していただきました。

実は、身近なこととして**障がいのある方と関わることが、地域への貢献につながる**と知ることができました。そう話すのは、地域に愛される酒屋を営むリカーショップイワナガさんです。コロナ禍にはチラシのポスティングを依頼したことをきっかけに、現在では生活介護事業所へ年間約6万枚のシール貼りの発注を行っています。「もっと一般企業と障がいのある方が関わるきっかけが増えれば、さまざまな仕事が生まれるかもしれない」との思いから、会場に集まった企業同士で、**「どのような仕事をお願いできるのか」「自社の仕事の延長線上で、どのような関わりが持てるのか」**を一緒に考えました。

RENKEI MEETING vol.02
2026.1.22 THU

03/ チイキの連敬ミーティング

色んな立場の地域の人が集合！ 立場を超えた「連敬」を目指そう！

「理不尽なことが許せなかった。 それが行動の原動力です」

そう語るのは、全国的にも知られる豊中市社会福祉協議会の勝部さんです。勝部さんのこれまでの実績は、とてもここでは書ききれません。今回は、地域住民とどのように力を合わせながら地域福祉を進めてきたのか、また、行政や制度だけでは対応しきれない課題に対して、どのように改善・解決へつなげてきたのかを共有していただきました。**「制度に人を合わせるのではなく、人に制度を合わせていく」「声なき声が社会を変える」**実際に現場で行動し続けてきたからこそ重みのある言葉が、特に印象に残っています。

一緒に農園に入り、ミニユンボで畑を整えたり、 道で寝ているホームレスの方一人ひとりに声をかけたり

いわゆる支援職の枠にとどまらず、地域の方々とともに行動を積み重ねてこられたからこそ、勝部さんの活動は住民全体を巻き込む大きな動きへと広がっていったのだと感じました。
最初から結果を求めるのではなく、まずは一緒にやってみる、動いてみる。その積み重ねが地域を動かす力になっているのだと思います。
会場に来てくださった皆さんとも、それぞれの強みや地域の力を生かしながら、これから何ができるのかを考え、連携しながら支援につなげていきたいです。

RENKEI MEETING vol.03
2026.1.30 FRI

04/ ミンナの連敬ミーティング

ミンナのチカラを集結！立場や職種を超えた「連敬」を目指そう！

地域で生きるを、みんなで支える。

福祉という言葉の語源や由来から始まり、重層的支援体制整備事業や支援のあり方について、菱沼教授にできるだけ専門用語を使わず、わかりやすく説明していただきました。地域で幸せに暮らしていくためには、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、自己肯定感を持ちながら、その人らしくいきいきと生活できることが大切です。そのために、地域での暮らしを支える仕組みの一つとして、重層的支援体制整備事業があります。

ありがとうを言い続ける胸の痛み。

今回の事業の中で、心に残った言葉の一つです。これは、支援される側の方が感じている思いなのかもしれません。しかし、どんな人にも必ず強みがあり、状況や状態が変われば、支援される側から支援する側へと立場が変わる可能性があります。大切なのは、お互いの誤解や偏見をなくし、ともに学び、ともに生きていくことです。
ワークでは、福祉SOSゲームを使って、支援に関わったことがない方でも参加しやすいように工夫し、地域資源を共有しながら、それぞれの知見を持ち寄りました。専門職の方にも、そうでない方にも、新たな気づきのある時間になったように思います。

福祉SOSゲームとは？

草加市等で作成した、地域で起こるリアルな「困りごと」を体験するゲーム。どこに相談・つなぐべきかをチームで考える福祉の仕組みと“助け方”が分かる実践型ゲームです。

考えてみよう

みなさんならどうしますか？

事例 / 01

おばあちゃんが去年亡くなってから、おじいちゃんが1人で歩く姿を見かけるけど、この頃季節に合わない服装だったりするし、いつものスーパーからの帰り道で迷子になって困ってる様子もあった。
1人息子(50代)は同居で、10年ぐらい前に不景気で仕事を辞めさせられたとのこと。元々は幼稚園バスの運転の仕事をしていたけど、ずっとお家から出られないそう。回覧板を届けると一応出て来てくれて話したりするけど、それ以外は全然見かけない。何か地域でできることあるかしら？

事例 / 02

外国にルーツのある方がお仕事場の工場を最近休みがち。お子さんが小学校に入学してから不登校になって困っていることが理由。職場でなかなか話せるお友達がいなくて、出勤していた頃は1人で持参のお弁当を食べていた。そのお弁当がいつも手作りのルーローハンや小籠包でとても美味しそうだった。挨拶をすればニコニコしてて、親しくなりたい気持ちはあるみたいなんだけど、日本語があまり話せないのが壁になってしまっているみたい。何か地域でできることあるかしら？

RENKEI MEETING vol.04
2026.2.27 FRI

Soka Fukushi Consortium

ハングオーバー株式会社 / NPO法人ソーシャルデザインワークス / 株式会社ひいらぎ / NPO法人believe

2026年3月発行　草加市福祉政策課